いのち、痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL

CONTENTS

2・3　新春インタビュー 蒲池会長
4〜6　年始のごあいさつ
7　TOPICS
8　あたまの体操／広報室から

地域医療により大きく貢献!!

第26号
平成23年 新春

病院機能評価認定　臨床研修病院

社会医療法人財団　池友会
福岡和白病院

〒811-0213
福岡市東区和白丘2丁目2-75
TEL.092-608-0001
E-mail:info@f-wajiro.biz
http://www.f-wajiro.biz

新春インタビュー

19床から1984床へ 蒲池会長が語るこれからの10年

1974年、19床でスタートした下関カマチ病院から36年。カマチグループは病院12、学校6を運営する医療法人として成長してきました。これからの10年間は回復期のリハビリテーションにも一層、力を入れ、今後、首都圏で10～20の回復期医療施設を新設し、高齢化社会の医療に携わる者としてスタッフ一同、最善の努力を続けます。

Q いつも医療の最前線を疾走しているように見受けられますが

蒲池　下関カマチ病院を開院したときから「厚生省（当時）の政策を10年先取りして動かねば」と考えてきました。当時、救急対応していたのは当院と久留米の聖マリア病院くらいで、普通に治療をすれば助かる患者さんが手遅れで亡くなっていました。国内で事故に遭えば、ベトナム戦争の戦場よりも死亡率が高かったのです。小倉に小文字病院を開院し、よその病院が受け付けない患者さんを、うちの技術と医学知識で治療し、全体をレベルアップさせてきました。福岡、北九州の医療現場から「タライ回し」を無くしたのです。

Q 医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」も活躍していますね

蒲池　24時間365日体制のER救急センターは十分に機能しています。救急はスピードが勝負です。地上を救急車で時間をかけるよりヘリで拠点病院に搬送し、ICUで治療を受けることで救命率は上がり

■蒲池　真澄（かまち　ますみ）

社会医療法人財団池友会特別顧問理事、カマチグループ会長。1940年4月14日、福岡県八女郡黒木町生まれ。蒲池家は江戸中期から医師で会長が9代目。九州大学医学部卒。虎ノ門病院、九大大学院医学研究科、下関市立中央病院、福岡大学医学部を経て1974年、下関市で救急指定の下関カマチ病院を開院し独立、1981年北九州市小倉北区に小文字病院、1987年福岡和白病院を開設し院長に、2003年からは会長に就任。

ます。医師や看護師、パイロットや整備士が常駐し、救急に備えています。

Q ユニークな施策で話題になっている武雄市の樋渡啓祐市長。長年、赤字だった武雄市民病院も巨樹の会が運営を始めてから順調なようですね

蒲池 市民の健康や生活改善に熱心な樋渡市長さんと一緒に、病院のお手伝いをさせていただきました。市民の皆さまにも喜ばれているようです。現在、新しい病院を建設中で2011年には竣工します。急性期や回復期と合わせて135床の規模になる予定です。

Q 首都圏に5つの病院があり、うち4つは回復期リハビリテーション病院ですね。

蒲池 誰もが高齢化して行きます。将来は医療費のほとんどが老人医療に占められることは明白です。日本の年間医療費は約35兆円で、ほかに高齢者の介護費が10兆円かかっています。国は医療費抑制に力を注いでおり、10年先を読んで対応できない医療機関は今後、脱落していくでしょう。そこで、この先、10年で首都圏に10～20の回復期施設を展開し、そこでの地域医療に尽くしたいと考えます。

Q リハビリテーション重視はいつごろから

蒲池 下関で救命医療に励んでいたとき、当時18歳の若いセラピスト山崎嘉忠君が就職してきました。当時は早期のリハビリはいけないとされていました。しかし、彼が手術後の患者さんにリハビリを施すと、何もリハビリをしない患者さんと予後が違っていました。あきらめていた患者さんもその様子を見て、生きる希望が湧き、リハビリに向うようになったのです。

Q だから多くのPT、OTを育成されているのですか

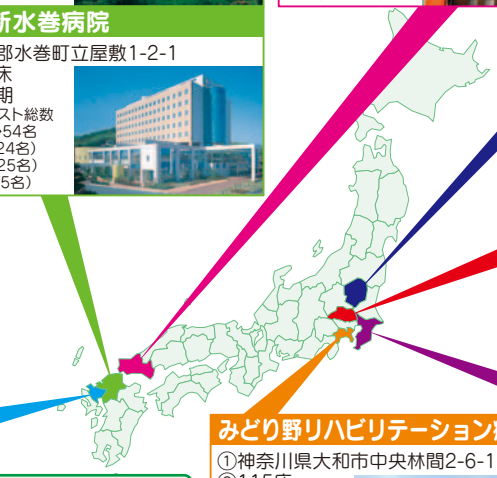
蒲池 急性期病院の医師は患者さんの生命を救うことに全力を傾けます。一方、患者さんからすれば命が救われた後は、健康だったころの「日常生活動作（ADL）」の回復を考えます。歩行、食事、衣服の着脱や排泄、入浴などの動作です。救命がADL回復のスタートで、診断がついた時点からリハビリが始まります。後遺症が発生した患者さんでも3ヶ月から半年リハビリを受けることで約8割はADLレベルが回復し家庭に戻れるようになります。

しかし看護師、PT、OTや言語聴覚士（ST）はまだまだ不足がちで、6つの専修学校で育成を続けています。

Q 今後は首都圏でも池友会イズムを発揮ですか

蒲池 病院の運営はオーケストラの演奏によくたとえられます。ヴァイオリンやフルートなど実に32種類もの楽器が指揮者のタクトの元で最高の演奏を聴かせます。病院も医師だけでなく看護師や薬剤師、技師、訓練士、事務、厨房、清掃など全職種が責任を果たしてこそ全体のハーモニーが生まれ、最高の医療現場となります。私は今後も「手には技術、頭には知識、患者さまには愛を。」をテーマに命を懸けて進みます。基本は、救急救命です。レベルアップを進行したい。それを支えるリハビリです。

カマチグループ関連病院 （平成22年10月1日時点）



福岡和白病院
①福岡市東区和白丘2-2-75
②317床
③急性期
セラピスト総数 59→54名
(PT32名) (OT18名) (ST4名)

香椎丘リハビリテーション病院
①福岡市東区下原2-24-36
②120床
③回復期
セラピスト総数 82→79名
(PT36名) (OT34名) (ST9名)

下関リハビリテーション病院
①山口県下関市今浦町9-6
②165床
③回復期
セラピスト総数 112名
(PT55名) (OT46名) (ST11名)

新上三川病院
①栃木県河内郡上三川町上三川2360
②209床
③急性期＋回復期
セラピスト総数 80→91名
(PT50名) (OT36名) (ST5名)

新小文字病院
①北九州市門司区大里新町2-5
②229床
③急性期
セラピスト総数 73→71名
(PT34名) (OT30名) (ST7名)

福岡新水巻病院
①遠賀郡水巻町立屋敷1-2-1
②212床
③急性期
セラピスト総数 58→54名
(PT24名) (OT25名) (ST5名)

所沢明生病院
①埼玉県所沢市山口5095番地
②42床
③急性期
セラピスト総数 12名
(PT7名) (OT4名) (ST1名)

新行橋病院
①行橋市道場寺1411
②246床
③急性期＋回復期
セラピスト総数 69→67名
(PT36名) (OT27名) (ST4名)

明生リハビリテーション病院
①埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2681-2
②111床
③回復期
セラピスト総数 75→74名
(PT42名) (OT23名) (ST9名)

新武雄病院
①佐賀県武雄市武雄町大字富岡11083
②135床
③急性期＋回復期
セラピスト総数 43→41名
(PT23名) (OT15名) (ST3名)

みどり野リハビリテーション病院
①神奈川県大和市中央林間2-6-17
②115床
③回復期
セラピスト総数 48→56名
(PT30名) (OT22名) (ST4名)

八千代リハビリテーション病院
①千葉県八千代市米本1808
②83床
③回復期
セラピスト総数 61→60名
(PT27名) (OT23名) (ST10名)

総ベッド数：1984床
セラピスト合計 764名
(PT合計 396名)
(OT合計 303名)
(ST合計 72名)

①住所 ②病床数 ③病床区分

あけまして おめでとう ございます

平成二十三年 年始のごあいさつ

伊藤　翼
院長

明けましておめでとうございます。院長室から第2駐車場を眺めると、2月の心・血管病センター着工に向けて、立体駐車場の建設が急ピッチで進み、新しい質の高いチーム医療を提供できる日が今から楽しみです。

齋藤 太郎
統括副院長 兼
ハートセンター長

今年は新しい心臓・脳・血管病センターの設立に向けて飛躍できる年になると思います。地域中核病院として責任をはたし、地域との信頼関係を強化し、診療の幅と深さ、および診療圏の広がりを求めていければと、希望しています。

冨岡 譲二
副院長 兼
ER･ICUセンター長

今年は卯年。福岡和白病院では、高度な医療を「脱兎のごとく」提供し、患者さんの痛みを迅速に取り除けるよう今年も精進いたします。救急センターは24時間・365日診療していますので、いつでも御相談ください。

渡辺　淳
副院長 兼
糖尿病センター長

新年おめでとうございます。昨年は糖尿病治療の分野では久しぶりに多くの新薬が利用できるようになり、ある意味で革新的な一年でした。今年はそれらを生かしたより良い治療を皆様に提供できるよう努力する所存です。

田上 真佐人
副院長 兼
医療技術部長

常に新たな方向性・展開を目指している信念に基づき、本年は「心血管センター（仮）」「本館の大改装」とまた飛躍的なハード面の向上へと進もうとしています。しかしこの「拡大」をただの「肥大」とすることなく、職員の士気も更に向上して行きたいと思います。

木下 とし子
看護局長

毎年看護の質とサービスの向上を目標に活動しています。今年は特に心血管病センター新設に伴い、看護師数確保と看護職員全てに当院の理念（知識・技術・愛）に基づいた教育に力を注いで行きます。

桐島　弘
事務長

昔「鎚音のする病院は良い病院」と耳にした事があります。環境の変化などに対応して変化する事を厭わない柔軟な組織を指しての事でしょう。ご多分に漏れず、当院も年始早々から工事のためご迷惑お掛け致しますが、更なる地域医療の推進の為ご理解ご協力をお願い致します。

渡辺 照男
臨床検査部長

和白病院の病理を担当して3年になります。年の初めは初心に帰り、高レベルの診療の基盤は正確な病理診断にあることを肝に銘じています。スタッフ一同心を合わせ、充実した飛躍の年を目指したいと思っています。

冨永 昌宗
麻酔科部長

和白病院に就職して、7年目になります。麻酔科のスタッフも徐々に増えつつあります。研修医や救急救命士の教育も行っていますが、常に安全第一を目標として今年も頑張ってまいりたいと思います。

林　和生
リウマチ・関節症センター長

画期的な運動療法（自宅リハビリ中心）を取り入れ手術の延期・回避が可能になりました。また、この運動療法により手術（膝・股関節手術）に関しては入院期間の短縮・術後早期の杖なし歩行が可能になりました。

久保田 博文
乳腺外科部長

乳腺外科は、乳癌を中心に、乳腺疾患を専門的に扱う診療科です。乳癌検診で、要精密検査となった患者様に対する精密検査も行っています。早期診断・治療を提供できるよう努力してまいります。

松野 泰治
放射線診断・治療センター長

昨年4月に3テスラMRIを設置し、高精細な画像が撮影出来る様になりました。詳細な画像が得られ、診断、治療に役立っています。放射線治療も開始から3年が経ちました。本年も診断、治療に努めて参る所存です。

田口 文博
内科主任部長

新年おめでとうございます。私は昨年4月から和白病院内科に勤務させて頂いております。昨年は世の中激動の一年でしたが、私個人にとりましてもそうでした。本年が平穏な、かつ飛躍の年となることを祈念致します。

吉永 英俊
泌尿器科部長

現職に着いて12年。年間の外来総数は現在6000人を超え、着任当時からほぼ倍増しています。腎・尿管疾患の腹腔鏡下手術や膀胱全摘術も行っています。増え続ける透析患者さんへの診療に一層力を尽くします。

比嘉　徹
循環器内科主任部長

あけましておめでとうございます。今年、私達循環器センターは新施設の増設に伴い、診療科の垣根を越えて、心疾患のみならず全身の動静脈疾患に対して新たな取り組みを行いたいと考えております。今年も宜しく御願い致します。

福山 幸三
脳神経センター長

平成23年から脳神経外科学会の専門医教育制度が変わります。『教育の充実が診療の質の向上につながる』を信念に、責任者として専門医試験の問題作成に関わります。医食同源の探求が趣味で、夏頃から体にやさしいパン作りにはまっています。

濱田 正勝
心臓血管外科部長

福岡和白病院に着任して10年になりました。地域の病院よりの手術紹介も増えて、心臓及び胸部大動脈の手術は900例を超えました。今年も「より良い手術」にて患者さまが安心できる診療を行なっていきます。

吉松　隆
呼吸器外科部長

肺癌・気胸・縦隔腫瘍・膿胸等の呼吸器外科疾患の診療の質向上に努めたいと思います。本年も宜しくお願い致します。安全・確実を基本とし、自分の家族であればどうするかという信条で、全力を尽くしたいと存じます。

井上 崇文
脊髄脊椎外科部長

2011年も実り豊かな生活を過ごしていただくことに尽力する姿勢に変わりはありません。ここ2年手術件数は200例前後で推移していますが、マンパワーを増やし昨年以上のニーズに応えられるようにがんばりたいと思います。

一ノ瀬 誠
脳神経外科部長

昨年は脳血管内治療専門医（原田啓）が常勤医となり、血管内治療も充実しました。本年も最小限の侵襲で最大限の効果をもたらす治療はもちろん、リハビリや介護支援の面でも脳の健康に関するニーズに対応致します。

半仁田 勉
整形外科部長

2011年の抱負は何事にも真剣に取り組むということ。当院の整形外科チームは関連病院への派遣も含め10人。それぞれに頑張っています。今年はさらに3人の新たな専修医も加え皆で盛り上げていこうと思います。

井上 展聡
脳神経内科部長

新年あけましておめでとうございます。地域医療にご奉仕できるよう誠心誠意努力し、これからも質の高い医療を常に提供できるようにと考えております。いつでもお気軽にご相談ください。

田原 正宏
外科部長

昨年は、スタッフも増えて消化器系の悪性・良性疾患や緊急手術の対応を広く受け入れることが可能となりました。今年も24時間365日体制で、地域の皆様の健康のため、尽力したいと思います。宜しくお願い致します。

市頭 教克
眼科部長

新年明けましておめでとうございます。和白病院眼科は、地域住民の皆様の目の健康に貢献するため、今年も日々精進していきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

スマイル委員会 ドッジボール大会

「患者様に笑顔を」、「職員が笑顔に」がモットーのスマイル委員会が今年もスポーツ大会を企画しました。ドッジボールは多くの職員が小学校以来ということで、最初は少し戸惑いもありましたが、やり始めると仕事中とは違った童心に返った良いスマイルが見られました。笑顔がつながり連携が深まる良い機会になりました。

新入職員紹介

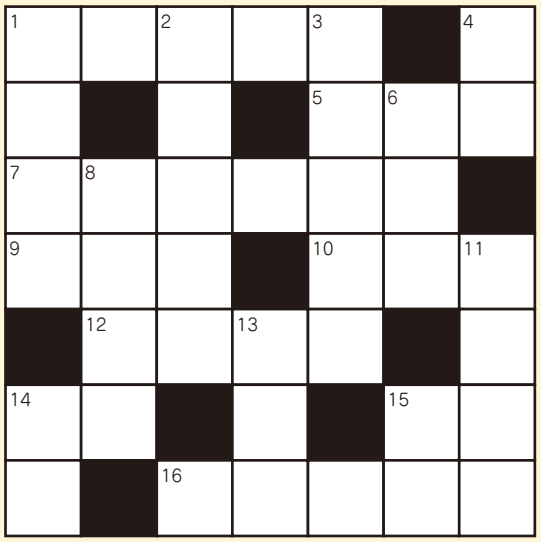
氏　　名：山下真吾
診 療 科：脳神経センター
　　脳神経外科・脊髄脊椎外科
出身大学：佐賀医科大学
趣　　味：テニス（今はほとんどやってませんが）

平成22年11月から着任いたしました。この地域の患者さんの一助となれるよう頑張っていこうと思います。よろしくお願いいたします。

第２駐車場立体駐車場建築のお知らせ

昨今、自家用車で来院される方々の増加に対し、当院駐車場では満車になる事も多く、空車までの待ち時間の長さ、また近隣の方々には、渋滞などで大変御迷惑をお掛けしていました。その為、現在第2駐車場内に3階建ての立体駐車場（屋根上を含めて4F）を建設中です。約120台の駐車場が増加される予定で、完成後には、それぞれの問題を解決できるものと思っております。工事に伴い現在、第2駐車場の駐車台数の制限をしています。2月末の完成までの間、皆様には大変御迷惑をお掛けしますが御理解と御協力をお願い致します。

かんたんトレーニング　あたまの体操　クロスワードパズル



タテのカギ

1. 外界からの光・音・におい・味・寒温・触などの刺激を感じる働き。「寒さで指の―がなくなる」
2. 昭和四十年代にブームがありました。中山律子プロなどが有名。
3. 物事の質や内面などが洗練されていないこと。仕事の出来上がりなどが大まかなこと。「―の新人選手」
4. 年末年始に「―帰り」します。
6. 時がたつにつれて状態が変化すること。移り変わっていくこと。「年次―」
8. 市原悦子が主演の「―は見た」
11. 医師診察を受けること。
13. 速度が遅い様子。「―ライフ」
14. 手術のこと。
15. 去年の干支。

ヨコのカギ

1. アンコール小児病院がある国です。
5. 年明けは受験生には「―スパート」の時期。
7. 日頃から患者様ご自身やご家族の健康、病気に対して相談応じてくれる身近な開業医の先生のこと。
9. 相手が強く、不利な状況。「―を強いられる」
10. 適宜な時に行うさま。日時に制限のないさま。
12. 年末年始の暴飲暴食で胃もたれして「―」を呑む。
14. 冬場は野球は「―シーズン」
15. 多数の人口が比較的狭い区域に集中し、その地方の政治・経済・文化の中心となっている地域。
16. 劇的な「逆転さよなら―」でチームが勝った。

解答はページ下段に掲載しています。

基本理念

手には**技術**、
頭には**知識**、
患者様には**愛**を

基本方針

1. **高度医療**　学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備整備の拡充に努めます。
2. **チーム医療**　患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
3. **地域医療**　いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療・福祉施設と密接な連携を推進します。

広報室から　事業仕分け

少し前の話になるが事業仕分けが大きくニュースに取り上げられた。無駄を省くという観点から、今回の第３弾では約2100億円の削減になったようである。そのような中、日本の医療費は約33兆円にものぼっている。そのうち約30％の10兆円が生活習慣病の治療に当てられていると言われている。生活習慣病は他の病気と異なり食生活や運動など少しの心掛けで治療や予防が可能である。自分の身体についた無駄な生活習慣や脂肪を事業仕分けできれば健康になるだけでなく、効果的に１兆や２兆の削減が可能かもしれない。健康管理は、自分たちの命だけでなく日本を救う。（な）

■クロスワードの答え